

日本語における「ポピュラー音楽」…英語 **popular music** の訳語
形容詞 **popular**/名詞 **people** についての議論 (※1)

・ **people** について

語源→ラテン語の **populus**

定義→マクミラン英英辞典によると「the plural of person (person の複数形)」(※2)

概念→中立的には人々、住民、国民など複数の人間が構成する集合体。

「個性のある個人」 **person** と比較して、個人個人の特徴が見られない。

→ (自治体・国家等の) 選挙権を持つ市民、有権者、公民=政治的主体

という意味で用いられる場合もある。(※3)

people/popular に日本語を対応させる→選択した日本語が持つ政治性、含意の変化

・ リンカーンのゲティスバーグ演説(※4)の結びの一文

「人民の、人民による、人民のための政治」(原文 **government of the people, by the people, for the people**) の「人民」部分を置き換えてみる。

Ex1 「民衆の、民衆による、民衆のための政治」→?

Ex2 「人々の、人々による、人々のための政治」→?

Ex3 「みんなの、みんなによる、みんなのための政治」→?

社会科学等の学問における「民衆」「大衆」「人民」の使い分けをめぐる議論

・ **popular music** の訳語の選択→書き手の意図、政治性の反映

「ポピュラー音楽」「ポピュラー・ミュージック」「大衆音楽」「流行音楽」

「民衆音楽」「人民音楽」など、選択によって語感の違いが生じる。

・ 民衆…伝統的な社会における王権・貴族、教会等の権力、権威に対して使われる。
個人の個性や主体性は存在している。

人民…広い意味では国家の構成員 (=国民) を指すが、狭い意味では抑圧されてきた被支配層としての国民を指す。その連帯と解放を重視する概念から用いられることが多く、左翼思想的な色彩が強い。(※5)

大衆…文化に関する文脈で高尚な文化と対置して用いられる。雑多な人々の集合。

「人民」が主体的な性格を持つのに対し、消極的な存在。 **mass**。

適切な日本語の訳語の選択→何と対置して people/popular 概念を持ち出すか？

- ・ 翻訳の際の概念上のやっかひさ

英語の popular music 高尚な芸術音楽に対する「大衆」音楽 多くの「人々」に共有された「流行」音楽	スペイン語の musica popular 「人民」主義的な社会批判・反権力的メッセージ も含む「民衆」音楽 現代版の「民族」音楽
--	---

popular music の訳語 = ポピュラー音楽？ (やっかいな議論の存在 + 重要性)

- ・ 英語に由来する概念に与えた適切な訳語 (「ポピュラー音楽」) が、
原語と同じ含意を日本語の中で確保しているか？

- ・ フォーク・ソングの例

英語の folk song = 民謡

- …近代^(※6) 以前から民衆の間に歌い継がれてきた(とされる)「民謡」
- …1960年代前後のアメリカで起きた復興運動「フォーク・リヴァイバル^(※7)」
→ modern folk song 「現代の民謡 = フォーク・ソング」という新しい概念の誕生

日本のフォーク ≠ 民謡

- …民謡の近代化・制度化
→ 日本の伝統的な歌が「民謡」として再編されたのは明治期以降である。^(※8)
→ 大正～昭和にかけて「新民謡^(※9)」を創作する活発な動き
民謡の歌唱法が確立^(※10)
- …アメリカの modern folk song に影響を受けた「フォーク」^(※11)

- …英語にした場合の語弊

- 民謡 = フォーク = folk song
- 「modern japanese folk song」は「新民謡」？「フォーク」？

※専門的にはフォーク・リヴァイバル以降のポピュラー音楽的なものは
folksong(≠folk song)、フォークソング(≠フォーク・ソング)の一語で表記、
区別されている。

補注

※1 people/popular の概念に対して、music のそれについても記しておく。

普段日本人は「音楽」という語を music という欧米語の訳語として用いているが、その欧米語の原語であるギリシャ語「ムーシケー (μουσική)」は、本来ギリシャ神話に登場する女神達のつかさどるもの(叙事詩、歴史、抒情詩、喜劇、合唱舞踊、恋愛詩、賛歌、悲劇、天文)に由来しており、「韻文、音楽および舞踊が各々別個に考察できないほど分ちがたく融合した統一体」という意味である。しかし、このような「一般に広まった教科書の見解」に対し、「事実の裏付けがなく」「復元できない」という批判もある。

(参考・引用 音楽のマルチメディア性 http://homepage3.nifty.com/jy/essays/media_multi.htm
芸術文化論 <http://homepage3.nifty.com/jy/classes2004/ehime.htm>)

※2 英単語を語源で学習 <http://www.alc.co.jp/eng/vocab/tobira/18.html> を参考にした。

※3 20世紀日本における「人民」概念の獲得と喪失 <http://homepage3.nifty.com/katote/jinmin.html> を参考にした。

※4 ゲティスバーグ演説について記しておく。

ゲティスバーグはアメリカ合衆国ペンシルバニア州にあり、ワシントンから北に車でおよそ一時間半の距離である。南北戦争中、最大規模の戦闘が行われた。

1863年11月19日、この地に作られた国立戦没者墓地の奉獻式においてエイブラハム・リンカーン(1809年2月12日～1865年 <http://ja.wikipedia.org/wiki/1865%E5%B9%B4> 月15日、第16代アメリカ合衆国大統領。奴隷解放宣言によって黒人奴隷を解放したことで有名。)が行った演説がゲティスバーグ演説である。

有名な「人民の人民のために～」はリンカーン本人の言葉ではなく、ウィクリフの聖書の序言によるものであり、ウェブスター(1782～1852、雄弁家、政治家)、パーカー(1810～1860、牧師、雄弁家、黒人解放運動家)などに引用されている。

原文は「この聖書は人民の、人民による、人民のための統治に資するものである」となっている。

以下全文

八十と七年前、私たちの父祖は、この大陸に新たなる国家を打ち立てました。自由を原点として懐胎され、人はみな平等であるとの命題に捧げられた国家です。

今私たちは、たいへんな内戦の渦中にあります。その国家が、あるいはそのような原点と命題とを奉じる国家一般が、長らえることができるかどうかを試されているのです。

私たちはその戦争の激戦地を集っています。その国家が生き長らえるためにこの地で命をなげうった人々の最後の安息の地として、その戦場の一角を捧げるために集まりました。それは私たちにとって、全くもってふさわしく、また理にかなった行いであります。

しかし、より大きな意味では、私たちがこの土地を捧げることはできません。この土地を聖別したり、神に捧げたりすることはできません。この地で奮闘した勇敢な人々こそが、生きている方々も戦死した方々も含め、すでにこの地を聖別しているのです。それに付け加えたり、差し引いたりすることは私たちの貧弱な力の及ぶところではないのです。

私たちがここで話すことは世界の耳目を引くこともなく、やがて忘れ去られることでしょう。しかし、彼らがこの地でなしたことは、永遠に世界の記憶に留められるのです。この地で戦った人々がこれまで気高くも進めてきた未完の仕事を完遂するために、私たち生きている者は、むしろ自らの身を捧げるべきなのです。

私たちの前には大いなる責務が残されています。名誉ある戦死者たちが最後まで完全に身を捧げた大義のために、私たちも一層の献身をもってあたること、これらの戦死者たちの死を無駄にしないと高らかに決意すること、神の導きのもと、この国に自由の新たなる誕生をもたらすこと、そして人民の、人民による、人民のための政府をこの地上から絶やさないことこそが、私たちが身を捧げるべき大いなる責務なのです。

(参考 キリスト教あれこれ <http://www.nskk.org/chubu/qanda/arekore/11.html>
ウィキペディア <http://ja.wikipedia.org/wiki/>

引用 ゲティスバーグ演説・全訳 <http://www.h4.dion.ne.jp/~room4me/civil/gettys.htm>)

- ※5 アメリカ合衆国に関しては、単一民族を基盤とした国民の観念が成立せず、しかも平等主義的傾向が強力であるため、左翼的伝統の欠如にもかかわらず、人民が国民の意味で用いられた。よってリンカーンのゲティスバーグ演説の一文「人民による人民のための～」の人民は、国民と同義である。

(引用 20世紀日本における「人民」概念の獲得と喪失

<http://homepage3.nifty.com/katote/jinmin.html>)

- ※6 近代がどの時期を指すかははっきりしなかった。以下諸説を記す。

- 1、ルネサンス・宗教改革の15・16世紀
- 2、中央主権・絶対王政の完成や自然科学の発達の17世紀
- 3、産業革命・市民革命の18世紀
- 4、民族主義台頭の19世紀

日本では主に明治維新以降を指すようだ。

(参考 近代社会学の小史 <http://www7.ocn.ne.jp/~ooguro/history.htm>)

- ※7 60年代のフォーク・リバイバルについて、アメリカのフォークの歴史を含めて記しておく。

20世紀前半

- ・急激な移民の増加により「アメリカ的」とされていたアングロ・サクソンの伝統や価値観＝アイデンティティーが脅かされる
- ・第一次大戦で国民性の概念を再確認
…植民地時代のアングロ・サクソンに根ざした、民俗・文化が単一なアメリカ文化、文化的なナショナリズムの台頭
- ・農村部における土地の疲労や農業政策の失敗→南部の農村の没落→西部を目指す
(1920年、都市人口が農村人口をこえる。)

大恐慌以降

- ・統一された国家としてのアイデンティティーを定義しよう→「多様な人々からなる国アメリカ」(各地域の工芸、美術、音楽の収集、展示)
- ・1929年ニューディール政策で政府が生活様式、生活文化の記録、保存を推し進める。
→衰退しつつある田舎の農村、労働者や移民も含め民俗的伝統を記録、保存。
→政府のみならず、市場を広げる目的でレコード会社も南部の民謡の収集、記録を行う。
- ・フォークの商業化
→ラジオ、レコード等のメディアの普及ともなって北米全土に広まる。
→南部の民謡は消費者を意識かつ洗練された商業音楽となっていく(ex カントリーミュージック)
- ・左翼にとってのフォーク
→民謡を労働者の歌「プロテスト・ソング」とみなし、経済的、社会的権利を求めするための労働運動の団結に用いる。
→ウディ・ガスリーとピート・シーガー
フォークソング研究家アラン・ロマックスの助手として国会図書館の民謡資料室でフォークの収集、整理の仕事をしていたピート・シーガーは、1940年に移動労働者のための慈善コンサートでウディ・ガスリーと出会った。恐慌により一家が離散し、放浪生活を続けながら貧困層・労働者の現実を歌っていたウディガスリーに誘われ、旅に出た後 *almanac singers* を結成し、都市部にフォークソングを広めた。

40、50年代

- ・商業的に大量に作られた消費のための音楽
- ・消費主義が広めたフォーク＝アメリカのアイデンティティーの認識
- ・左翼的フォークソングの衰退
→マッカーシー上院議員による共産主義排除運動

60年代前後

- ・若者達の第2次大戦後の繁栄、消費主義、アメリカ的価値観や生活様式への反発
→シンプルさ、有機的、自然への回帰(ex ヒッピー)
- ・キューバ危機、ベトナム介入、黒人差別

- 学生運動、公民権運動
- ・「プロテストソング」フォーク再加熱
 - 意見表明の格好のメディア
 - 商業化された「フォーク」への反発
 - ボブディラン、ジョーンバエズらの登場

(参考書籍)

民俗学の政治性 編訳・岩竹美加子 出版・未来社
虹の民におくる歌 著・ピートシーガー 出版・社会思想社

参考 web

文化としてのアメリカ民謡 <http://www.arc.ritsumei.ac.jp/folksong/multiculture/004.html>
地域のコミュニティ http://opinfo.lib.musashi-tech.ac.jp/grad_pdf/9731137.pdf
フォークギター史 <http://www.where-i.com/~ziggy/guitarblog/archives/history/cat2/index.html>
秋の夜長のフォークコンサート <http://www.hi-ho.ne.jp/gotta/miura/001007.htm>

- ※8 教科書の記述（「民謡」として再編されたのは明治期以降のことである）に関連し、日本の民謡について記しておく。

概要…日本の民謡は古代から続く伝統的な歌唱曲を指すが、大部分は歌のみである。
昭和 62 年の調査では現存する民謡は約 58000 曲あり、民謡という呼び名は明治時代の半ばに民俗学など学問的な必要から生まれた。
世界的には特定の集団、農村や職業集団に固有の歌謡というとらえ方が一般的である。

歴史…それまで民謡は俚謡、田舎歌と呼ばれていたが、明治中期の日清・日露戦争により国内交通の利便性が進み、都市部村落部との交流が容易になりつつあると都市の花柳界や寄席で紹介され、三味線つきの流行り歌、俗謡として都市化される。
1910年創立日本初ニッポノフォン「コロムビア」が人気の高い俚謡を積極的に録音、大正期には地方のものも発掘しローカルさがうけたこと、同じ頃「民謡」という言葉が生まれたことも影響し、地位を得始める。
この都市化・録音技術の発達によって、それまで歌唱・演奏方法の面で様々な形態を取っていた民謡は徐々に画一化し始める。

初出…学問的には明治39年の志田義秀 著「日本民謡概論」あたりが最初の使用例か。
その後では大正3年文部省文教委員会編集の「俚謡集」（中身は民謡集）があるが、語源としては「日本民謡概論」が最初と思われる。

(参考・引用 日本百科事典 http://encyclopaedicnet.com/japan/ae/ae_e_24.html
<http://www.asahi-net.or.jp/~ib4s-cyuk/utagoel.pdf>)

- ※9 大正から昭和にかけて「新民謡」を創作する動きが活発であり

…「童謡」と同じく、詩人や作曲家によって始められた文化運動の一環。
この時期には西洋音楽が多々国内に入ってきていたため、自国の音楽を再確認すべくもともと日本各地で伝承されてきた歌を学んだ上で、新しくその土地にふさわしい歌を残そうとしたもの。
野口雨情、北原白秋などが数多くの名作を残した。
編纂の例を挙げておく。

- 1、採譜の際、日本独自の音を西洋音階の範疇に収める（西洋音楽に造詣が深い作曲家によるもの）
- 2、大雑把な即興性の定型化
- 3、性の謳歌を卑しいものとして削除

(引用 d-score <http://www.d-score.com/db/sinminyou>)

- ※10 「民謡」の歌唱法

…西洋音楽の7音階（ドレミファソラシド）を5音階にするために第4音（ファ）と第7音（シ）を外し、第7音（シ）を第5音（ソ）にすることから、4と7を抜くヨナ抜き音階と呼ばれる音階法をとることが多く、また小節（こぶし）と呼ばれる力のこもったビブラート（音程を細かく上下させる）を聴かせる独特の歌唱法が多用される。

※11 日本のフォークの歴史について概要を記しておく。

モダンフォークの流行

- ・基本的にアメリカへの憧れから、異国の新しい音楽として学生中心に受ける。
→マイク真木が学生スターになるなど、「フォーク=知的でファッションブルな歌」
→カレッジ・フォークの流行
- ・高度成長の最中でありオリンピックに湧く60年代中盤には、アメリカで流行っていたボブ・ディランらのプロテストソングは受け入れられず、ブームは下火に。

反戦歌としてのフォーク・ソング

- ・60年代、URCレコードなど特に関西地方で盛んだったアングラフォークシーンが時代に沿ってプロテスト・フォーク色を強め、日米安保・原水爆禁止・ベトナム反戦運動で歌われる。
(ex 高田渡、高石 友也、岡林信康)
- ・全共闘世代の学生が上記のミュージシャンに感銘を受け、フォーク・ソングを歌い始める。

四畳半フォーク

- ・学生運動が終息に向かうと、反社会的なメッセージ性を持たないフォーク・ソングが登場する。吉田拓郎に代表される「新しい時代」を示す歌は、学生運動で敗北し、思想や政治的な主張・立場を変えた=転向した学生たちの共感を得た。
ほどなくしてガロ、かぐや姫らのオープンチューニングによる独特の和声、内省的かつ懐古的な歌詞といった特徴を持つフォーク・ソングが(ある種の鎮魂歌的な要素も含んで)一世を風靡したが、荒井由実の登場により衰退していく。

現在のフォーク

- ・90年代前後に流行したネオ・アコ、アンブラグドの影響により、「アコースティックギターを中心としたシンプルな音楽」もフォーク・ソングと認識されている節がある。
ゆず、コブクロなどの「ストリートミュージシャン」の存在が大きいと思われる。

(参 考 ・ 引 用 フ ォ ー ク ソ ン グ の 夜 明 け
<http://homepage1.nifty.com/manyapage/parque/akuma/akuma11.htm>
ウィキペディア <http://ja.wikipedia.org/wiki>
はてなクエスチョン <http://q.hatena.ne.jp/1141492745>)

.....

その他 (語句)

社会科学…社会現象を研究する学問。経済学、政治学など。対義語は自然科学や人文科学。

文脈…文章や文の続き具合

対置…対照的な位置に置くこと

含意 (がんい) …ある言葉がその意味を含むこと

商業主義…営利を第一とする主義

南米…両アメリカ大陸のうち、パナマ地峡より南の部分。

伝承…しきたりや伝説を受け継ぎ、後世へ伝えること

変質…性質が変わること

ボブ・ディラン

…1941年5月24日誕生。アメリカの歌手・詩人・作曲家。本名ロバート・ツインマーマン。

「ボブ・ディラン」の名前は、詩人のディラン・トマスからとられた。

反戦ムードが高まりつつあるアメリカで、60年代に「風に吹かれて」を発表。

その後もアメリカを代表するアーティストの一人として、デビュー以来多大な影響を

同時代の人々に与えた。詩人としてはノーベル文学賞にノミネートされるほどであり、音楽界のみならず20世紀の重要な文化人の一人である。

(引用 ウィキペディア <http://ja.wikipedia.org/wiki/>)

制度化…社会や団体を運営していくための決まりを作ること。